

複数月平均 80 時間を超える教職員
0 人を目指して

働き方改革 通信

For everyone's Smile

第 19 号
令和 4 年 10 月
山形県教育庁



☆来年度の授業時数と、休日の行事について考える☆

さて、みなさん。右のキャラクターを見たことはありますか？
皆さんからお寄せいただいた取組みの中で、効果が大きかったもの、
取り組みやすかったもの、是非取り組んでいただきたいものを
ピックアップしたページに登場しています。

(学校における働き方改革の取組み手引き【改訂版】より)

下記に取組みを再掲します。是非勤務時間内の教材研究時間の確保に向けて
参考にさせていただきますよう、お願いします。

教材研究時間確保

<意図・目的・願い>

勤務時間中に教材研究をするための時間を確実に確保したい。

<取組み内容>

- ① 火曜日の放課後は学年会や分掌部会等の会議は行わない日として、教材研究の時間を 30 分間確実に確保することで、定時退勤できるようになった。
- ② 平成 29 年度 6 校時までである日数 (48 日)
平成 30 年度 6 校時までである日数 (33 日) 5 時間授業が 15 日間増
5 校時の下校時刻 15:00 6 校時の下校時刻 16:00
※ 勤務終了時刻 16:50 <教材研究できる時間が 15 時間増>

<プロセス事例Ⅰ (小学校)>

- ① 教材研究の時間確保の必要性を確認。
- ② 教務会にて、教材研究の時間を確実に確保し、効果的に活用させることを確認。
- ③ 教材研究の必要性を職員に強調して啓発。
- ④ 学年ごとに教材研究をするなど、効果的な研修を実施。

<プロセス事例Ⅱ (小学校)>

- ① 平成 29 年 11 月下旬から 12 月中旬に検討課題を洗い出した。
- ② 2 月 7 日の職員会議で、平成 30 年度の経営方針・教育課程を提示した。その中で 6 時間の日数の減、教材研究できる時間の増を確認した。
- ③ 平成 30 年 4 月から教務主任が月歴・週案・実施簿などで時数を管理し、確実に教材研究できる時間を確保している。

<まとめ>

- ・教材研究の時間確保のために、午前授業、短縮授業、ノー清掃デー、定時退校日を組み合わせるなど様々な取組み事例が報告されている。
- ・いずれも前年度から計画的に原案を作成し協議したうえで進めている。

裏面に続きます。

☆速報 月平均時間外在校等時間と 80 時間超教員数の状況☆

県立高等学校

○月平均時間外在校等時間（時間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2	13:41	16:43	37:43	42:45	36:06	47:24	52:49	43:35	36:45	36:08	32:32	30:31
R3	44:51	52:14	49:51	47:03	32:43	43:24	53:44	42:40	37:50	34:08	24:08	24:40
R4	44:57	52:08	47:58	44:36	31:14	集計中						

○月平均 80 時間超人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2	6	8	74	167	117	223	346	157	115	82	51	66
R3	189	367	265	275	88	182	360	154	116	80	16	36
R4	195	352	240	205	80	集計中						

特別支援学校

○月平均時間外在校等時間（時間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2	15:54	14:58	29:45	28:07	14:46	26:14	28:26	23:33	21:53	20:09	22:57	21:59
R3	30:09	25:45	28:21	22:37	11:42	25:40	25:59	24:07	21:43	19:50	21:10	19:11
R4	28:05	25:38	28:30	23:15	12:28	集計中						

○月平均 80 時間超人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
R3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4	1	0	0	0	0	集計中						

県立高等学校は、5月以降時間外在校等時間及び80時間超の人数が、それぞれ昨年度を下回る傾向にあり、取組みの成果が出ています。

また、今年度、県立高等学校を対象に、ICTを活用した働き方改革アイデアを募集したところ、下記のような取組み報告がありましたので、ご紹介します。

○事例報告

《庄内地区県立高等学校》

○目的：朝のSHRの繁忙を解消する仕組みづくり及び生徒の自己管理能力・主体性UP

○理由：朝の連絡や配布物が多く、生徒も教師も忙しい。

○方法：「SHR改革」

<https://www.fy1203.com/2022/01/19/innovate-shr/>

○期待する効果：1人1台タブレットの活用及び生徒の自己管理能力の向上。試行後、朝の自由時間を生みだし、生徒が読書や自主学習等の主体的な活動の時間にしたい。

